

## 木鶏鳴子夜

もっけいしや  
(木 鶏 子夜に鳴く)

虎姫高校剣道部の新しい部旗には「木鶏子夜に鳴く」と書かれています。

<木鶏>というのは、木を彫って作られた鶏のこと、また、<子夜>とは、深夜子(ね)の刻のことです。この言葉は、『景德伝灯録』など禅語集に出てくる言葉で、「芻狗天明に吠ゆ」という言葉と対句になっています。<芻狗(すうく)>とは藁でできた犬、<天明>とは夜明けのことです。「<木鶏>や<芻狗>でも一心に念じていれば、自由自在に鳴いたり、吠えたりするすることが出来るのだ。必ず修行を成し遂げなさい」と先達が私たちに諭している言葉であると私は解釈しています。

また、<木鶏>という言葉には次のような逸話があります。

昔、中国に紀涪子(きせいし)という、喧嘩をさせるための鶏(闘鶏)を育てる名人がいました。ある時、国王が紀涪子にどんな鶏にも負けない闘鶏を育てよと命じました。十日たち、王は「もう闘えるか」と聞くと紀涪子は「まだです、ただ威張り散らしているだけです」と答えました。さらに十日たち王が「もういいか」と聞くと「まだです。他の鶏の声を聞いただけで飛び掛かっていくようでは」と答えます。また十日たち王が「もういいだろう」と聞きますと「いやまだです、闘志が先走り相手をにらむ癖が治りません」。そしてさらに十日たち「もう試合に出せそうか」と聞きますと「そろそろです。他の鶏の鳴き声がしても、木でできた人形の鶏のように動きません。ここまで来ると相手は闘う前に逃げ出してしまいます」と答えました。(『莊子』大宗師 第六)

戦前、大相撲に双葉山という大横綱がいて、69連勝という大偉業を成し遂げたのですが、70戦目に負けてしまいました。若い頃、双葉山は友人からこの木鶏の逸話を教えてもらい、それ以後、木の鶏のように表情一つ変えず、相手が降参してしまうような力士になろうと修行に励んでいましたが「未だ木鶏に及ばず」とその友人に謙虚に伝えたといわれています。

この部旗は、昭和55年、高校の教員として本県に赴任され、56年滋賀国体剣道成年の部優勝メンバーとして活躍された杉浦知康先生が、虎姫高校剣道部のため、自ら筆を執り、作成されたものです。

「どんな夢でも不可能と思わず努力なさい。そして、その努力を決して他人に見せびらかせず、謙虚にしていると他の人はその努力をきっと認めてくれるに違いない」という杉浦先生のメッセージがこの旗にはこめられていると思います。